

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

なし。

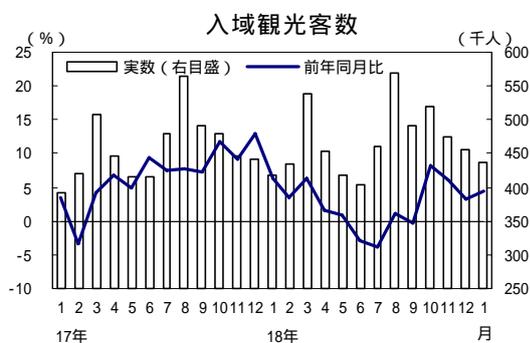
### 1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、10月は、世界のウチナーンチュ大会等イベントの開催及び航空会社のキャンペーンが実施されたことにより前年を上回った。11月は、団体旅行が好調だったことや、海路においてクルーズ船の寄港が2回あったことなどから前年を上回った。12月は、修学旅行生が増加したことや、年末の入域観光客数が好調に推移したことなどから前年を上回った。1月は、増便や使用機材の大型化、離島直行便の輸送実績が好調だったことから前年を上回っている。

なお、10、11、12、1月は過去最高を記録し、引き続き高い水準で推移している。

10～12月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内ホテルが新規ホテルとの競合激化等により前年を下回ったものの、リゾートホテルは、入域観光客数の増加を背景に好調だったことから、全体では前年を上回った。



### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
入域観光客数	1,392	1,276	1,520	1,500
(前年比)	5.4	0.2	0.9	5.9
ホテル稼働率(前年差)	0.3	0.0	1.6	0.7

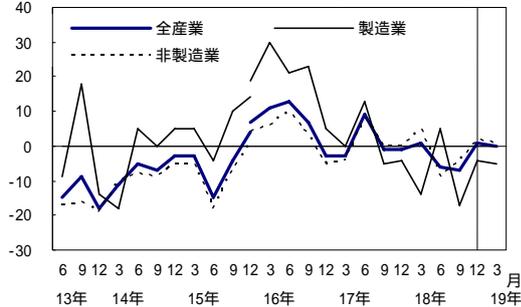
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅に転じており、資金繰り判断は「楽である」幅が横ばいとなっている。

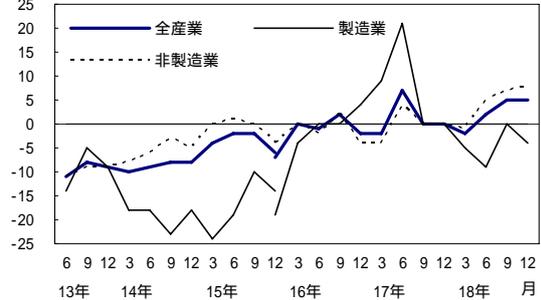
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



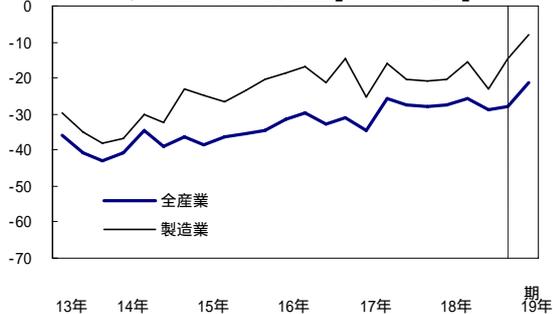
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。  
九州地区のD I。

### 景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「法人系ユーザーでネットワーク見直しに伴う回線受注はあるが、旧回線の増速やサービス変更がメインで、新規回線増につながる案件は少ない。消費者向け光インターネットサービスは、ADSLサービスと比較しても家庭用インターネットの主流になりつつあり、当社の光サービスも増加している(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

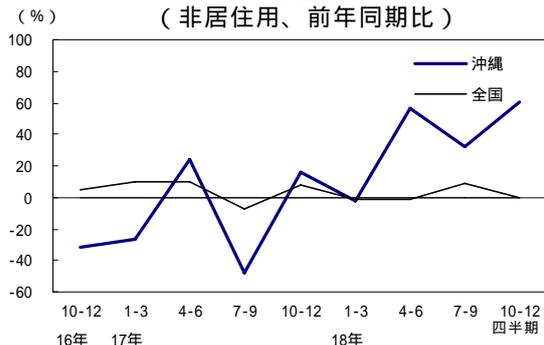
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	21.1	16.2( 0.9)
製造業	2.8	2.9( 11.6)
非製造業	23.6	18.1( 0.2)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

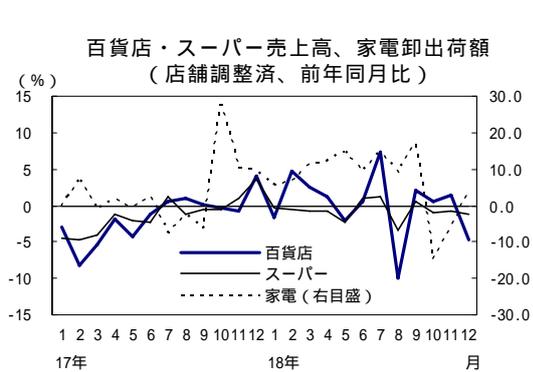
百貨店は、10月は、気温が高めに推移したことから秋物衣料の動きが鈍かったものの、催事効果から靴やバックなどの身の回り品が好調だったことから、前年を上回った。11月は、衣料品の動きは鈍かったものの、物産展などの催事が好調だったことから食料品が前年を上回り、全体としては前年を上回った。12月は、身の回り品や食料品に動きがみられたものの、衣料品が暖冬の影響で大幅に減少したことから、全体としては前年を下回った。

スーパーは、クリスマスや年末商戦を中心に食料品に動きがみられたものの、暖冬の影響から衣料品が不調だったため、全体としては前年を下回った。

家電は、大型量販店の新規出店効果が一巡したことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「新規店舗を含めた全店舗計では3か月前と比べて売上高が若干減少しているが、既存店ベースでは3か月前の前年同月比と今月の前年同月比を比べると同様な推移をしており、景気は変わらない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



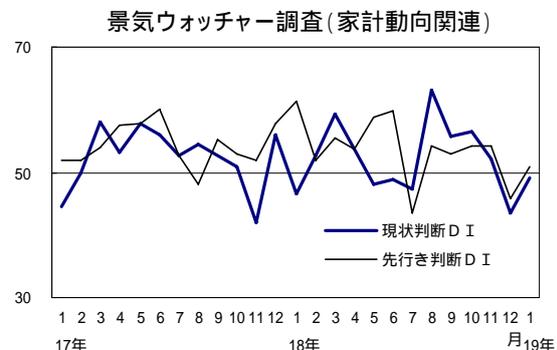
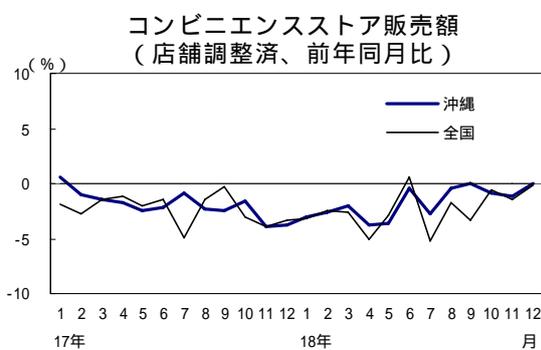
(前年同期比, %)

	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	1.7	0.1	0.0	1.5
スーパー	0.6	0.7	0.6	1.0
家電卸出荷額	8.3	11.8	13.8	5.1
コンビニ	2.6	2.5	1.4	0.7
景気ウォッチャー	52.9	50.3	55.3	50.7

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲、持家、給与が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

